

2024年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月11日

上場会社名 株式会社 トレジャー・ファクトリー 上場取引所 東
 コード番号 3093 URL https://www.treasurefactory.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野坂 英吾
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画室長 (氏名) 小林 英治 TEL 03-3880-8822
 四半期報告書提出予定日 2023年10月11日 配当支払開始予定日 2023年11月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第2四半期の連結業績（2023年3月1日～2023年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第2四半期	15,862	23.7	1,448	44.5	1,468	42.3	932	40.2
2023年2月期第2四半期	12,825	19.5	1,002	545.7	1,032	469.6	665	—

(注) 包括利益 2024年2月期第2四半期 961百万円 (44.1%) 2023年2月期第2四半期 667百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第2四半期	39.97	39.78
2023年2月期第2四半期	29.90	29.69

(注) 2023年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第2四半期	15,195	7,532	48.9
2023年2月期	14,659	6,815	46.1

(参考) 自己資本 2024年2月期第2四半期 7,425百万円 2023年2月期 6,750百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	12.00	—	25.00	37.00
2024年2月期	—	12.00	—	—	—
2024年2月期（予想）	—	—	—	13.00	25.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

(注2) 2023年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年2月期については、当該株式分割前の実際の配当額を記載しております。

3. 2024年2月期の連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,586	19.0	3,147	22.7	3,176	21.1	2,015	17.8	86.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 — 社（社名）—、除外 — 社（社名）—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年2月期2Q	24,347,800株	2023年2月期	24,323,800株
② 期末自己株式数	2024年2月期2Q	955,130株	2023年2月期	1,152,200株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年2月期2Q	23,329,998株	2023年2月期2Q	22,249,910株

(注) 当社は、2023年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている将来に関する事項は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき記載したものであり、今後様々な要因によって異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間についても百万円単位に変更して記載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類移行にともなう社会経済活動の正常化が進んだものの、継続的な物価上昇や金融資本市場の変動等により、未だ不透明な状況が続いております。

リユース業界においては、SDGsへの取り組みが拡大する中でのリユースへの意識の高まりや、物価高に伴うリユースへの需要増加を背景に、引き続き市場全体が拡大しております。

当社グループにおきましては、当第2四半期連結会計期間は、前期に続き堅調に推移し、6-8月の当第2四半期連結会計期間の営業利益は415百万円と、計画を上回り、第1四半期連結会計期間に続き、当第2四半期連結会計期間も過去最高の営業利益を達成しました。単体において直営店を10店、グループ会社においては直営店を2店出店し、既存店売上も堅調に推移しました。また、リユース事業を行うグループ会社の株式会社カインドオル（以下「カインドオル」）や株式会社ピックアップジャパンがいずれも堅調に推移し、増収増益となりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高15,862百万円（前年同期比23.7%増）、営業利益1,448百万円（前年同期比44.5%増）、経常利益1,468百万円（前年同期比42.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は932百万円（前年同期比40.2%増）となり、過去最高利益を達成しました。

セグメントごとの経営成績は、次の通りであります。

（リユース事業）

連結売上が前年同期比24.2%増、単体の売上は同21.6%増、単体既存店が同11.5%増となりました。カテゴリー別では、衣料は外出需要の伸びを受けて前年同期比30.5%増となりました。電化製品は、3-4月の新生活需要や6-8月の夏物家電需要を取り込み、前年同期比16.5%増となりました。また、外国人観光客向け販売の回復などから、ブランド品や腕時計などの服飾雑貨は前年同期比26.9%増、コロナ禍以降取り扱いを強めているホビー用品も同18.7%増と高い伸びとなりました。また、連結のEC販売額は前年同期比17.9%増、単体のEC販売額は同22.9%増となりました。

仕入では、当期連結商品仕入高は前年同期比32.2%増、単体の仕入は同29.5%増となりました。単体の買取チャネル別では、持込買取が同28.0%増と引き続き堅調に推移し、店舗以外の買取チャネルでは、宅配買取が同29.9%増、出張買取も同23.3%増と好調に推移しました。

出店は、当第2四半期連結累計期間においては、単体にて総合リユース業態を2店、服飾専門リユース業態を6店、古着アウトレット業態1店、スポーツアウトドア専門リユース業態1店、計10店出店しました。出店地域も、関東6店、関西3店、九州1店となり、各地域にバランスよく出店が進みました。また、グループ会社のカインドオルでは直営店を2店出店しました。当第2四半期連結会計期間末における店舗数は、単体で直営店177店、FC店4店の合計181店、グループ全体で合計251店となりました。

以上の結果から、売上高は15,500百万円（前年同期比24.2%増）、セグメント利益は2,282百万円（前年同期比35.5%増）となりました。

（その他）

レンタル事業の「Cariru」では、結婚式などのイベント需要を取り込み、売上は前年同期比26.6%増となったものの、広告宣伝費の投下を強めたことなどにより、販管費が同60.0%増となったことから、減益となりました。

以上の結果から、売上高は523百万円（前年同期比23.0%増）、セグメント利益は64百万円（前年同期比35.0%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、現金及び預金が976百万円減少、商品が938百万円増加、建物及び構築物（純額）が216百万円増加、敷金及び保証金が133百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して536百万円増加し、15,195百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、短期借入金が295百万円増加、未払法人税等が222百万円減少、賞与引当金が56百万円減少、長期借入金が126百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比較して179百万円減少し、7,663百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益を932百万円計上したこと等により、前連結会計年度末と比較して716百万円増加し、7,532百万円となりました。

（キャッシュ・フローの分析）

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ976百万円減少し、2,089百万円となりました。また当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは158百万円の支出（前年同四半期は459百万円の収入）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益1,468百万円、減価償却費237百万円があった一方で、棚卸資産の増加額945百万円があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは695百万円の支出（前年同四半期は404百万円の支出）となりました。これは主に店舗新設に伴う有形固定資産の取得による支出460百万円、敷金及び保証金の差入による支出160百万円があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは128百万円の支出（前年同四半期は59百万円の支出）となりました。これは主に長期借入れによる収入310百万円があった一方で、長期借入金の返済による支出465百万円があったことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、リユース事業の成長、新規事業への投資、海外市場での成長、M&Aによる成長、DX投資による成長という5つの成長戦略を掲げ、中期経営計画達成に向けて取り組みを進めております。

当第2四半期連結累計期間においては、連結売上が前年同期比123.7%となり、経常利益率も前年同期から更に改善し、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比140%を超え、計画を上回る進捗となりました。この結果、通期の業績につきまして、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が前回予想を上回る見込みとなったため、2023年4月12日に公表しました業績予想を修正しております。

詳しくは、本日（2023年10月11日）公表の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,073	2,097
売掛金	905	954
商品	5,087	6,025
その他	630	703
流動資産合計	9,697	9,781
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,361	1,578
土地	426	426
その他（純額）	403	539
有形固定資産合計	2,192	2,544
無形固定資産		
のれん	76	68
その他	137	149
無形固定資産合計	214	217
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,941	2,074
その他	614	578
投資その他の資産合計	2,555	2,653
固定資産合計	4,962	5,414
資産合計	14,659	15,195

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	81	76
短期借入金	1,892	2,188
1年内返済予定の長期借入金	782	753
未払法人税等	746	524
契約負債	79	86
返金負債	37	49
賞与引当金	481	424
株主優待引当金	5	0
その他	1,458	1,364
流動負債合計	5,563	5,467
固定負債		
長期借入金	1,557	1,430
資産除去債務	695	738
その他	26	26
固定負債合計	2,279	2,195
負債合計	7,843	7,663
純資産の部		
株主資本		
資本金	898	906
資本剰余金	833	857
利益剰余金	5,625	6,268
自己株式	△610	△613
株主資本合計	6,747	7,419
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	3	6
その他の包括利益累計額合計	3	6
新株予約権	51	67
非支配株主持分	13	38
純資産合計	6,815	7,532
負債純資産合計	14,659	15,195

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）
売上高	12,825	15,862
売上原価	4,777	6,024
売上総利益	8,047	9,838
販売費及び一般管理費	7,045	8,389
営業利益	1,002	1,448
営業外収益		
自販機収入	5	7
為替差益	14	5
助成金収入	5	0
その他	10	15
営業外収益合計	36	28
営業外費用		
支払利息	6	6
その他	0	2
営業外費用合計	6	8
経常利益	1,032	1,468
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	1,031	1,468
法人税、住民税及び事業税	343	448
法人税等調整額	23	61
法人税等合計	366	510
四半期純利益	665	958
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	25
親会社株主に帰属する四半期純利益	665	932

（四半期連結包括利益計算書）

（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）
四半期純利益	665	958
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1	3
その他の包括利益合計	1	3
四半期包括利益	667	961
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	667	935
非支配株主に係る四半期包括利益	—	25

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,031	1,468
減価償却費	172	237
のれん償却額	8	8
株式報酬費用	48	24
賞与引当金の増減額（△は減少）	47	△56
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	—	△5
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	6	6
為替差損益（△は益）	△12	△2
助成金収入	△5	△0
固定資産除売却損益（△は益）	0	0
未払消費税等の増減額（△は減少）	△20	△147
売上債権の増減額（△は増加）	△88	△49
棚卸資産の増減額（△は増加）	△565	△945
仕入債務の増減額（△は減少）	1	△5
その他	65	△18
小計	689	513
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△6	△6
助成金の受取額	5	0
法人税等の支払額	△229	△665
営業活動によるキャッシュ・フロー	459	△158
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△276	△460
無形固定資産の取得による支出	△17	△48
敷金及び保証金の差入による支出	△86	△160
敷金及び保証金の回収による収入	6	20
その他	△31	△47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△404	△695
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	88	295
長期借入れによる収入	300	310
長期借入金の返済による支出	△386	△465
新株予約権の発行による収入	—	38
新株予約権の行使による株式の発行による収入	39	182
自己株式の取得による支出	△0	△200
配当金の支払額	△100	△289
財務活動によるキャッシュ・フロー	△59	△128
現金及び現金同等物に係る換算差額	14	5
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	9	△976
現金及び現金同等物の期首残高	2,352	3,065
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,362	2,089

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書計上額 (注) 3
	リユース事業				
売上高					
外部顧客への売上高	12,477	347	12,825	—	12,825
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	78	78	△78	—
計	12,477	425	12,903	△78	12,825
セグメント利益	1,684	99	1,784	△782	1,002

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、レンタル事業、システム事業、不動産事業等を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益の調整額は全社費用であり、主にセグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(注) 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書計上額 (注) 3
	リユース事業				
売上高					
外部顧客への売上高	15,500	362	15,862	—	15,862
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	161	161	△161	—
計	15,500	523	16,024	△161	15,862
セグメント利益	2,282	64	2,347	△898	1,448

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、レンタル事業、システム事業、不動産事業等を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益の調整額は全社費用であり、主にセグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(注) 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な後発事象）

株式取得による会社等の買収

当社は、2023年10月11日開催の取締役会において、アクオ株式会社（以下「アクオ」）の株式を取得して子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結しました。

(1) 株式取得の目的

当社は、リユース事業の成長、新規事業への投資、海外市場での成長、M&Aによる成長、DX投資による成長の5つの経営方針を掲げ、中期損益計画達成に向けて取り組みを進めております。M&Aの分野では、具体的には、当社と補完関係があるリユース企業などグループ内でシナジーが発揮できる企業のM&Aを積極的に実行する方針であります。

アクオは、愛知県を地盤に、「ゴルフキング」と「ゴルファーズプレイス」という屋号で、ゴルフ専門のリユースショップを直営10店展開し、併せてゴルフアパレルを専門に扱うリユース品のオンラインストア「ココゴルフ」を運営しております。

当社は、グループ会社に株式会社GKファクトリー（以下「GKファクトリー」、2018年3月に子会社化、店舗業態：ゴルフ専門リユースショップ「ゴルフキッズ」）があり、これまでシステム連携を進め、GKファクトリーのゴルフ用品に関するノウハウを当社と共有することで、グループ全体でゴルフ用品の扱いを伸ばしてきました。一方で、ゴルフキッズ業態は、直営店がまだ1店のみであることから、今後、ゴルフ専門店の拡大を加速するために、直営店を10店展開しているアクオの株式を取得することといたしました。

(2) 株式取得の相手先の名称

氏名：森 慎太郎

住所：愛知県名古屋市

上場会社と当該個人の関係：該当事項はありません。

(3) 買収した会社の概要

名称 アクオ株式会社

所在地 愛知県清須市西枇杷島町古城2-3-2

代表者 森 慎太郎

事業内容 ゴルフ関連用品の販売買取事業、インターネットサービス事業

資本金 10百万円

設立年月日 2004年12月

(4) 企業結合日

2023年10月20日（株式取得日）

2023年11月30日（みなし取得日）

(5) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(6) 取得する株式の数

取得株式数 200株（議決権比率：100%）

(7) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

対価の種類 現金 624百万円

(8) 主要な取得関連費用の内容及び金額

外部アドバイザーに対する報酬・手数料等 41百万円

(9) 支払資金の調達方法

2023年10月19日に株式会社三菱UFJ銀行から、650百万円の借入を行う予定であります。

(10) 取得企業を決定するに至った主な根拠

株式取得により、当社が議決権の100%を獲得したためであります。